

表現の自由を犯し、歴史の事実を改ざんする「大村知事リコール運動」に反対の声をあげましょう

2020年7月21日 革新市政の会

美容外科「高須クリニック」院長の高須克弥氏らが結成した「お辞めください大村秀章愛知県知事 愛知100万人リコールの会」は、8月1日から大村知事のリコールを求める直接請求署名を開始します。リコール運動で河村たかし名古屋市長は、自身の声を録音した宣伝カーを走らせるなど実働部隊となっています。高須氏は、6月県議会に同知事の不信任決議の請願を提出しましたが、紹介議員になった西区選出の「減税日本」議員のみの賛成で不採択になりました。

リコールの理由は、昨年秋に表現の自由を攻撃する不当な妨害を受け展示中止となった「あいちトリエンナーレ2019」の企画展「表現の不自由展・その後」を再開し、この展示に税金を使って補助を与えた大村知事が許せないというものです。河村氏は、トリエンナーレ開催の名古屋市負担金の支払いを拒否していますが、県から請求訴訟を起こされています。

高須氏、河村氏の主張にはまったく道理がありません。表現の自由とは、たとえ自分にとって不快な内容であっても、他者が公共空間で表現する権利を侵すことができないというものです。だから、税金が投入され、かつ公共施設で開催される展覧会でこそ、表現の自由は厳密に守られなければなりません。そうでなければ公権力による検閲を認めることになり、表現の自由は守られないからです。

高須、河村氏らの狙いは明らかです。高須氏は第二次世界大戦中に起きたユダヤ人大虐殺を否定しています。河村氏は「表現の不自由展・その後」に展示された「平和の少女像」を「日本人の心を踏みにじるもの」と発言し、旧日本軍性奴隷制度の存在も否定しました。南京大虐殺を否定する発言も行っています。両者に共通しているのは、歴史の事実を自己の主張にあわせて改ざんする、いわゆる歴史改ざん主義です。リコール運動の狙いは、過去の侵略戦争すらも美化する右翼的思想を政治運動として広げ、河村市長の野望を果たすための条件づくりと言わざるを得ません。日本維新の会もこれを後押しすることで影響力の拡大を狙っています。

リコール運動そのものは県民の権利です。しかし表現の自由を否定し、ましてや歴史改ざん主義が背景にあるリコール運動を容認することはできません。革新市政の会は、今回のリコール運動に反対します。

革新市政の会に参加する団体・地域組織のみなさん。このことを急いで構成員に知らせ、「リコール運動に反対しよう。歴史改ざん主義に反対し表現の自由を守ろう」の声を広げましょう。いま「『表現の不自由展・その後』をつなげる愛知の会」が、「大村知事へのリコール運動に反対する声明」への賛同運動にとりくんでいます。これへの支援も呼びかけます。